

2016年2月度

第54回野田村仮設住宅訪問活動報告

2016年2月22日(月)
報告：松坂有佳子(旭川東光教会)

実施日：2016年2月19日(金)

参加者：13名

(鮫教会4名、八戸教会1名、青森教会2名、八戸聖書教会1名、旭川教会1名、旭川東光教会3名、北三陸教会1名)
お茶会用持参品：パウンドケーキ、チョコレート、みかん、お土産用パウンドケーキ、タオル、洗剤など
門前地区仮設個別配布用品物：使い捨てカイロ、タオル



4年半以上続けられてきた支援活動が、いよいよ来月で終了という感謝と緊張を感じながら、第54回の支援活動が招集、実施されました。

まず礼拝。マルコ4章35節のいささか唐突な「向こう岸へ渡ろう」とのイエスの言葉に従い、数隻の舟が夕闇迫る湖に漕ぎ出す様子に、わたしたちの活動を重ねました。

旭川からの初参加者3名も加えて13名でのボランティアになりました。

初参加者3名には、被災地の状況のみならず、北東北の豊かな食文化にも触れていただこうと、陸奥湊市場や道の駅ばあふるなどに立ち寄りました。案の定すっかり魅了されて、お土産もしっかり買い込んで、笑顔満載×3、にわか親善大使として北東北をPRしていただけることでしょう。



お茶会には、この活動を覚えて継続的に支援していただいている方からはパウンドケーキやチョコレート、鹿児島地区牧師会からはみかんを、さらに青森友の会から焼き菓子やお惣菜等をたくさん提供いただき、家族へのお土産となりました。門前地区仮設住宅には使い捨てカイロやクッキー、惣菜が用意され、7世帯に配布することができました。



お茶会に来られたほとんどの方は、4月か遅くとも5月には、新しい家に移られることが決まっておられるとのことでした。来月で最後の訪問ボランティアということが伝わっており、ロクに寂しいとおっしゃってくださり、復興住宅の方にも来てご欲しいという声もいくつもありました。仮設住宅を彩ったガーデニングの花々の写真と共に、被災されたご自宅の写真を持参された方は、仲良くなったボランティアに、新しい家のガーデニングも見に来て欲しい、八戸に行く時には、教会にも行きたいと言われたそうです。支援が終了するからこそ、個人的な関係が深まっていくのかもしれないと感じました。



しかしまだ行き先が決まらない方もおられ、複雑な気持ちを吐露されました。また昨年11月に復興住宅に移り住まれた方は、直後にお連れ合いが脳出血で倒れ、手術されたこと、転院した先では、よいケアが受けられず、状態が悪くなっておられること、自分ひとりではどうすることもできず、ふさぎ込みがちであることを涙ながらに話されました。また門前仮設では在宅中の女性と少し言葉を交わしました。大工さんの不足で年内いっぱいくらいは仮設暮らしが続くとのことでした。

「最後のひとりまで」という祈りを与えられてきたわたしたちですが、この活動の終わり方に、主の憐れみと希望が注がれることを祈らずにはおられません。皆さまに与えられている思いや祈りを分かち合い、共にみこころを求め、歩むことができますように。

また、来月北海道新聞苫小牧版に掲載されるシリーズのために記者の能正明さんが同行され、お茶会の様子やボランティア、仮設の方々への取材が行われました。